

# かみさと



学校教育目標

豊かな心もち  
他のために行動できる子  
やさしく かしく  
たくましく

さいたま市立上里小学校 学校だより

発行者 校長 梶山 崇

〒339-0006

さいたま市岩槻区上里2丁目2番地

TEL048-794-2316

㊦んがえて行動 ㊦んなにあいさつ

㊦そい合って働く ㊦もだちを大切に

令和3年2月1日(月) 2月号

## 中村 哲医師 (NGO「ペシャワール会」現地代表) の功績について

校長 梶山 崇

2月に入りました。厳しい寒さが続いています。3日には立春を迎えます。子どもたちは寒さに負けず元気に登校しています。うれしい限りです。

さて、2月のお話朝会(講話朝会)では、2019年12月4日にお亡くなりになった中村 哲医師について紹介する予定です。中村医師はアフガニスタンのナンガルハル州ジャララバードで、人道支援・農業支援に取り組んでいた方です。その功績からアフガニスタンの大統領より勲章や名誉市民権を授与されています。現在のアフガニスタンの情勢ですが、外務省海外安全ホームページによると、レベル4(退避勧告)が出ている国です。

中村医師は1946年に福岡市で生まれました。1973年大学を卒業して、国内の診療所や病院に勤務しました。それから福岡の山岳会の遠征隊に医師として同行し、1984年にパキスタンの病院に着任しました。私が子どもたちに伝えたいのは、中村医師が山岳会の遠征隊に参加するきっかけです。それは少年時代から昆虫が好きで、珍しいチョウが見られるかもしれないと考え、遠征隊に参加したことです。昆虫好きな子どもはたくさんいると思います。特別なことでないきっかけから世界に羽ばたいたことを伝えたいです。また、好きなことを極めることの大切さも伝えます。

その後、中村医師は1987年アフガニスタンの難民キャンプで巡回診療を始めました。2000年にアフガニスタンが大干ばつとなり、清潔な水と食料があれば治る病気でも、亡くなる人が急増した状況を見て、飲料水確保のための井戸を掘り始めました。そして、2003年より用水路工事を始めました。工事を行うにあたり、土木を独学で学び、図面を描き、自ら重機を運転しました。現地の人たちだけで、維持・管理できるように日本で用いられていた伝統的な技法を採用しました。それによって、16,500haの農地が潤されました。16,500haの農地は東京ドームが約3,529個分入る広さです。また、植樹は120万本を超え、砂漠化した大地が緑に変わり、農業を行う人65万人が戻りました。稲や麦、野菜、果実、豆が実り、養蜂も軌道に乗り出しました。

現地の方との生活を共にして、中村医師は以下のように述べています。「地元の人は何を求めているか、そのために何ができるか、生活習慣や文化を含めて理解しないと善意の押し付けだけでは失敗します。」「100の診療所より1本の用水路」と述べています。これから国際社会を生きていくうえで、その国の生活習慣や文化を含めて理解することはとても大切です。さいたま市教育アクションプランの中でも、「国際社会で活躍できる力」を育成すること(Global)が掲げられています。また医師は、復興は軍事でなく、農業からとの信念のもと、近年は国連機関や国際協力機構(JICA)とも連携し、ノウハウをアフガニスタン全体に広めようと考えていました。低学年の子どもたちには内容が難しいと思いますが、危険をかえりみず、自らの信念で、アフガニスタンのために尽くした中村医師の功績をぜひ、すべての子どもたちに理解してもらい、子どもたちが自身の生き方を考える機会にしてくれればうれしいです。

今月も本校の教育活動にご支援をお願いいたします。

※この内容を書くに当たっては、新聞記事を参考にしております。